

都市再生整備計画 事後評価シート

な か の じょう い せ ま ち
中之条・伊勢町地区

平成23年2月

ぐ ん ま け ん な か の じょう ま ち
群馬県中之条町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	群馬県	市町村名	中之条町	地区名	中之条・伊勢町地区	面積	55ha					
交付期間	平成18年度～平成22年度	事後評価実施時期	平成22年度	交付対象事業費	500百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 道路：山崎王子原線、新屋敷小原線側溝整備 地域生活基盤施設：ふるさと広場整備 高次都市施設：ふるさと交流センター地域交流館整備									
		提案事業	地域創造支援事業：既存建物取り壊し工事（中之条王子原跡地）、ふるさと交流センター展示販売館整備、観光交流イベントの開催 事業活用調査：駅周辺整備実態調査									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	事業名 道路：金比羅山2号線、西中之条本線、資料館西線、資料館外周線、寿町線、中裏中央線、王子原2号線、中之条幼稚園線、堅町バイパス線、林昌寺参道線、新栄橋線、小中学校外周線、竜ヶ鼻長岡線、中之条駅西線、二十三夜線、伊勢町土場線側溝整備		削除/追加の理由 事業期間見直しに伴い削除		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 観光ガイドボランティア案内回数の指標に関係するが、数値目標は据え置く					
		提案事業	事業活用調査：高齢者生活支援実態調査		高齢者保健福祉プラン策定に伴い削除		まちづくり目標に関係するが、影響が小さいため目標は据え置く					
	新たに追加した事業	基幹事業	公園：近藤児童公園整備 既存建造物活用事業：ふるさと文化の薫り館整備		公園：周辺地域への回遊性を誘導する拠点づくりのため追加 既存建造物活用事業：周辺地域への回遊性を誘導する拠点づくりのため追加		観光ガイドボランティア案内回数の指標に関係するが、数値目標は据え置く					
		提案事業	地域創造支援事業：既存建物取り壊し工事（旧廣盛酒蔵）		既存建造物活用事業の追加に伴い、取り壊し工事を追加		来街観光客数及び観光ガイドボランティア案内回数の指標に関係するが、影響が小さいため数値目標は据え置く					
交付期間の変更	当初変更	平成18年度～平成22年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	来街観光客数	人/年	8,169	H17	16,000	H22	●	○	あり なし	今回の施設整備に併せて、それらを拠点とした各種のイベントを新たに開催した結果、来街者数が増加し、観光を主とした元気なまちづくりに貢献した。	平成23年6月
	指標2	観光ガイドボランティア案内回数	回/年	346	H17	450	H22	●	×	あり なし	東京から温泉地までの直通バスが平成16年9月から運行開始された事に伴う列車利用観光客数の減少などにより、駅周辺の案内回数が激減した。しかし、直近の案内者数については、増加傾向が見られることから、事業による一定の効果は発現している。	平成23年6月
指標3	新規開設店舗数	件	0	H17	3	H22	●	△	あり なし	経済情勢等の悪化や新規開設店舗を促進するための観光交流施設整備が、設計の再検討や結果の公表に伴い完成時期が遅れた。また、空き店舗に店舗が新設されるまでの交渉や改修等には、長期日数を要することから、目標値まで店舗数を増加できなかったが、新規開設店舗が1店舗あり、事業による効果は発現している。	平成23年6月	
3)その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値					
	その他の数値指標1	道路のバリアフリー化率	%	0	H17		8				道路側溝の整備を行った結果、車両通行時の騒音軽減や道路のバリアフリー化が図られ、地域住民が安全で安心して暮らせる快適な居住環境づくりに貢献した。	平成23年4月
	その他の数値指標2	チャレンジショップ店舗数	件	0	H17		7				観光交流施設内にチャレンジショップ（全8区画）を整備した結果、新たに7店舗が開設され、周辺空き店舗への新規店舗開設につながる機運向上が図られた。	平成23年4月
その他の数値指標3	観光交流施設の来場者数	人/月	0	H17		6,500				観光交流施設を整備した結果、観光客以外にも地域住民の施設来場者が急増し、住民同士の交流が活性化したことで、元気なまちづくりに大きく貢献した。		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 住民が参加した設計検討委員会により、観光交流施設を整備したので、住民同士による縁側的な交流が図られている。 観光交流施設の整備により、施設周辺が景観形成重点区域に指定されたので、今後はより質の高い街並み景観づくりが期待できる。 イベントの開催などを通じて、地域住民と行政、商店主との対話の機会が増え、行政職員のコミュニケーション能力が向上した。 今回整備した観光交流施設の運営を芸術関係者に委嘱したことで、アートやデザイン性に優れた施設内展示や質の高いクリエイティブな情報発信等が図られている。 公園休憩施設を整備し、清掃や湯茶接待を地域の高齢者に委託したことで、地域住民が気軽に滞留でき安全で安心して遊べる公園となっている。 											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	施設整備に向けた町民主体の設計検討委員会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も地域住民や各種団体等と連携しながら、施設運営や活用促進への協力を図る。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なかのじょう経済活性化プロジェクト「まちなみ活性化部会」の活動	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も組織の主体的な活動に任せて、行政は後方支援を実施していく。					

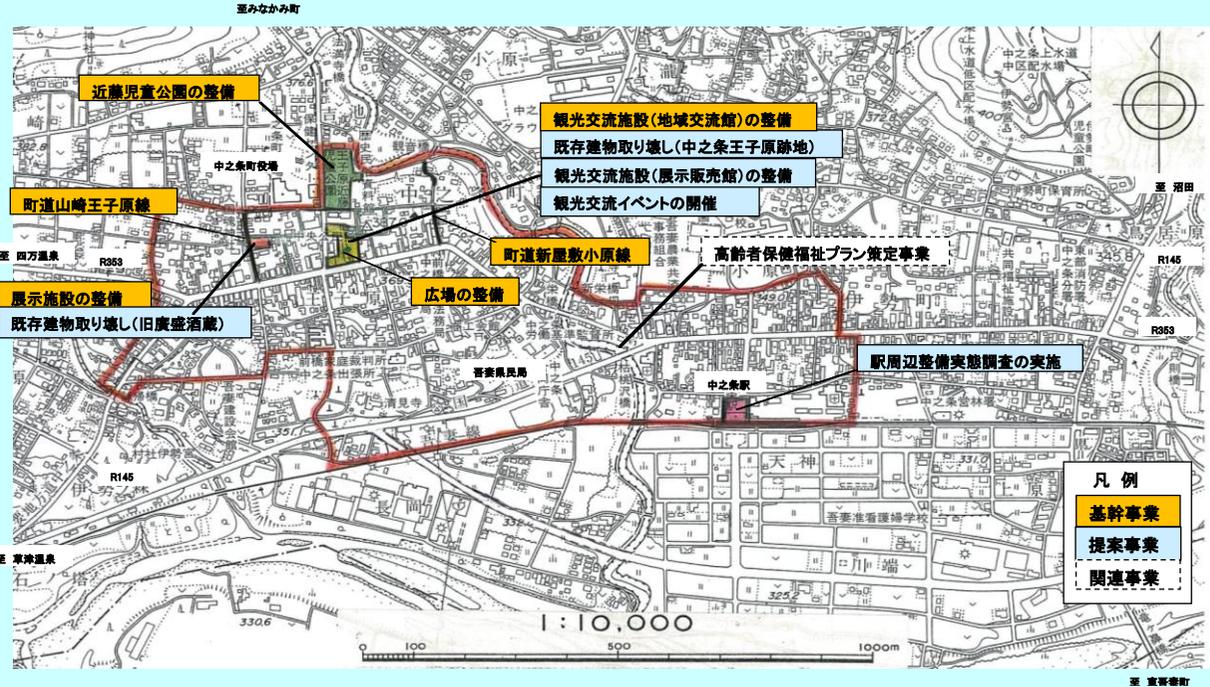
様式2-2 地区の概要

中之条・伊勢町地区(群馬県中之条町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
『すべての人がHOTするふるさとのまちづくり』 ～住む人の優しさで ふるさとの温かさを感じる まちを目指して～ 目標1: 四万・沢渡温泉郷を訪れる観光客の回遊性を増加して、散策したい街並み景観づくりを目指す 目標2: 住民と観光客とがふれあうための、観光交流空間を核とした経済基盤の確立 目標3: すべての人に優しく、安全で安心して暮らせる快適な居住環境を創る	来街観光客数	単位: 人/年	8,169 H17	16,000 H22	16,797 H22
	観光ガイドボランティア案内回数	単位: 回/年	346 H17	450 H22	184 H22
	新規開設店舗数	単位: 件	0 H17	3 H22	1 H22
	道路のバリアフリー化率	単位: %	0 H17		8 H22
	チャレンジショップ店舗数	単位: 件	0 H17		7 H22
	観光交流施設の来場者数	人/月	0 H17		6,500 H22



近藤児童公園の整備



観光交流施設の整備



町道の側溝整備



広場の整備

まちの課題の変化

- 観光交流施設の整備や各種のイベント開催等により、地域住民による中心市街地での賑わいや来街観光客が増加し、経済波及効果を促進させるための基盤づくりが図られたが、今後は、年間を通して来街する新たな魅力づくりや空き店舗を活用した基盤づくりが課題である。
- 観光交流施設周辺の道路整備が図られ、観光客の回遊性増加や住民生活の安全性が向上したが、今回整備期間を見直した観光交流施設周辺の道路や中之条駅周辺の道路は未整備であるため、安全で安心な居住空間(バリアフリー化)の整備を早急に実施する事が課題である。
- 観光交流施設整備に伴う町民主体の検討等が契機となり、中心市街地におけるまちづくりの機運が活発化したことで、国道の歩道や駅前広場の整備が進められ、街並み景観づくりに対する意識喚起が図られた。今後も都市基盤におけるバリアフリー化や街並みの景観づくりを実施しながら、観光客を引き込む魅力づくりが課題である。
- 各種イベントを開催したことにより、鳥追い太鼓や郷土芸能等の歴史的財産の新たな活用が図られ、住民と観光客との交流が推進された。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 今回整備した観光交流施設で各種イベントを定期的に開催し、魅力ある賑わいづくりができるようソフト面での支援を図る
- 回遊性をさらに向上させるため、今回整備した施設エリア全体をPRする仕組みづくりを進める
- 今後も住民生活の安全性向上や活発化したまちづくりの機運を持続させるため、行政は町民が主体となった活動等を積極的に支援する
- 歴史的財産の活用が持続できるよう関係者との連携や支援を行いながら、住民と観光客の交流を推進するほか、地域独自の新たな魅力づくりを進める
- 住民の滞留空間づくりでもある空き店舗活用を促進させるため、所有者との交渉支援や助成制度の創設を図る
- 引き続き優先度の高い事業として位置付けた中で、観光交流施設周辺の道路整備を早急に実施する
- 中之条観光ガイドボランティアセンターと連携を図りながら、中之条駅周辺の回遊利便性やバリアフリーに配慮した道路整備を進める
- 街並み景観づくりのための助成制度の創設や景観形成事業の実施により、観光客を引き込む魅力づくりを図る
- 平成22年3月に合併した旧六合村地区を含めたまちづくりの方策を図る